

栗東子育て教育 **Next** プロジェクト

教育部と子ども青少年局の協働による「栗東子育て教育ビジョン」の構築



栗東市・栗東市教育委員会

I これまでの家庭・地域・校園の連携

1. これまでの連携の取組 ～くりちゃん元気いっぱい運動～

栗東市独自の子育て・教育の連携事業を代表するものは、「栗東の子どもをどの子もかしこく育てましょう！」のローガンのもと、教育委員会を中心に平成18年にスタートした「くりちゃん元気いっぱい運動」です。

「第1弾 早ね早おき朝ごはん」「第2弾 きらりフル チャレンジ」、子どもたちの生活習慣と学力の向上に向け、家庭・地域・校園の三者が協働しながら推進していくことを重視した取組でした。

その後、市内で度重なる子どもの問題行動について、予防的・積極的対応を求める本市青少年問題協議会の提言を受け、また本県において発生したいじめによる中学生の自殺事案等を契機に、感謝や反省の態度の醸成を目的とした「第3弾 ありがとうと言える子育て」を取組に加えることとなりました。この取組は、学校での学習活動を支える規律や、コミュニケーション能力の育成を家庭・地域と校園が一体となって推進する「栗東市子育てのための12か条」の取組として発展しました。

そして、外国語を含めた言語能力の育成を重点とした今般の学習指導要領の改訂に伴い、豊かな体験を基盤に、図書館教育、外国語教育の振興を図り、教育活動全般で「ことばのチカラ」を高める「第4弾 ことばのチカラ・プロジェクト」をスタートしました。

<「くりちゃん元気いっぱい運動」の取組の変遷>

第1弾 早ね早おき朝ごはん	2006(平成18)年
第2弾 きらりフル チャレンジ ～くりちゃん検定～	2007(平成19)年
第3弾 ありがとうと言える子育て 「栗東市子育てのための12か条」の取組	2012(平成24)年
第4弾 ことばのチカラ・プロジェクト	2019(平成31・令和元)年

2. 「くりちゃん元気いっぱい運動」のコンセプト

(1) 「かしこさ」に込める二つの力と「習慣」の獲得

事業開始時から掲げるローガン「かしこく育てましょう」の「かしこさ」とは、算数や読み書きをはじめ、学力テストや知能検査ではかれる力（認知能力）だけではなく、我慢することができる、人と協力できる、気持ちをうまく整理することができるなど、学力テストや知能検査でははかることのできない力（非認知力）を指しています。

またこうした力の向上には、望ましい「学習習慣」、「基本的生活習慣」、「社会的生活習慣」という「習慣」の獲得が重要なカギを握ると考えてきました。

(2) 習慣づくりに向けた家庭・地域・校園の連携と協働

こうした「習慣」の獲得には、①具体的な行動を教え(気づかせ)、②周囲からの働きかけによって継続させ、③価値や成果を実感する体験が必要です。ここで重要なのが、「どこでも」「いつでも」「だれからも」という日常的な働きかけです。たとえば、校園であいさつの大切さを子どもに教えたとしても。家庭や地域で、その大切さが否定されたなら、あいさつが「習慣」となることはありません。ですから、「くりちゃん元気いっぱい運動」においては、開始当初から家庭・地域・校園の連携と協働を重要視してきました。

3. これまでの「くりちゃん元気いっぱい運動」の成果と課題

(1) 「第1弾 早ね・早おき・朝ごはん」

定着を目指して、その重要性の理解を、子どもだけでなく、家庭や地域に広げ、その結果を「ふだんの生活習慣アンケート」を通して測り、その後の各校園の取組指標として生かしていくという取組です。平成18年度以降の結果を経年比較すると、小学生・中学生の「早ね・早おき・朝ごはん」を含む基本的な生活習慣は確実に改善してきました。

しかし、ここ数年は数値の上昇に頭打ち傾向が見られます。数値に現れない個々の事情をつぶさに見ていくと、保護者の就労や病気等のため「早ね・早おき」が困難であったり、「朝ごはん」を食べさせてもらえないまま登校したりする子どもは、どの学年、地域にも一定数存在し、校園からの一律的な呼びかけだけでは改善できない深刻な状況が見えます。就学前から家庭教育に直接的に介入するような、きめ細やかなで積極的な支援が求められます。

(2) 「第2弾 きらりフル チャレンジ～くりちゃん検定～」

朝学習や宿題等で「くりちゃんテキスト」を使って、繰り返し基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、「くりちゃん検定」で、担任以外の採点者を意識し、正しく丁寧に漢字を書くことや時間内に正確に計算することを求め、その成果を「認定証」として手渡す…という仕組みは、この12年で市内に定着しました。検定認定率は年々上昇傾向にあり、子どもたちの検定への意欲と日常の学習の成果が見られています。また平成29年以降、対象を小学生に絞り、学習支援員の派遣を充実させて実施している振り返り学習や再チャレンジを通して、小学校では漢字計算とも最終認定率が100%を常に維持しています。

しかし、今般の学習指導要領では、今後高度で複雑化した社会を生き抜く力を育むために、基礎的・基本的な知識・技能の習得だけでなく、これらを活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力の育成に向けた「主体的、対話的で深い学び」が求められています。そのため「学習習慣」の確立や「基礎的・基本的な知識・技能」の習得を主眼としたこれまでの「第2弾 きらりフル チャレンジ～くりちゃん検定～」は継続しつつ、発想の転換と新たな仕組みづくりが求められています。

(3) 「第3弾 ありがとうが言える子育て」と「栗東市子育てのための12か条」

当市は、度重なる学校の「荒れ」を経験し、特に中学校における問題行動の深刻化は、学校の機能不全と少年犯罪を生み、その影響が市民生活にも及ぶ時代がありました。このような問題に対し、当市青少年問題協議会は、専門部会調査を経た平成23年度に①校園における道徳教育の充実②家庭教育力の向上③地域教育力の向上、④庁舎内組織の改編を柱とする「提言」を出し、それに呼応する取組として「ありがとうが言える子育て」が提起されました。その後、講演等に参加した保護者、地域住民の「子育ての要点をわかりやすく」との要望に応えるために「栗東市子育て12か条」が誕生し、家庭教育を支える取組として展開してきました。

しかし、「第3弾 ありがとうが言える子育て」は学校教育課が担い、「栗東市子育てのための12か条」は生涯学習課が担うという仕組みは、あたかも“「栗東市子育てのための12か条」の取組は、家庭や地域の課題で、校園はその協力者”という誤解を校園現場に生みだしています。また「栗東市子育てのための12か条」のポスター図案を巡る係争事案は、解決したとはいえ、取組に少なからずの暗い影を落としています。

(4) 「第4弾 ことばのチカラ・プロジェクト」

本年度（平成31年4月）にスタートしたこの取組は、①教育活動全般における言語能力の育成、②中学校区を単位とした小中連携による継続的な取組、③学校図書館の充実と活用の拡大、④外国語・英語教育の充実、⑤教育研究所への委嘱研究を柱としています。

それぞれの取組が始まって間もない現時点で成果を書き上げることはできませんが、幼保との接続を含んでいない点や、家庭・地域との連携が明確になっていない点で、「くりちゃん元気いっぱい運動」のコンセプトからの逸脱も指摘されます。

4. 新たな連携の取組「栗東子育て教育 Next プロジェクト」

このような「くりちゃん元気いっぱい運動」が抱えるこれまでの課題を克服し、家庭・地域・校園の連携を強化するために、この度、「栗東子育て教育 Next プロジェクト」を、教育委員会事務局(以下、教育部)と子ども青少年局で立ち上げます。

Ⅱ 「栗東子育て教育ビジョン」の作成と推進体制

1. プロジェクトのゴール(目的)

今回のプロジェクトを推進するにあたり、以下をゴールに設定します。

- (1) 非認知能力の育成を重視し、0歳から15歳(を経て成人)に至るまでの一貫した子育て・教育の指針として、「栗東子育て・教育ビジョン(仮称、以下略)」を作成します。
- (2) 「栗東子育て・教育ビジョン」を作る中で、第1弾から第4弾までの「くりちゃん元気いっぱい運動」および、「栗東市子育て12か条」等、従来の取組を整理・再編します。
- (3) 「栗東子育て・教育ビジョン」を、教育委員会事務局と子ども青少年局の各課が協働して作り、この取組を通して、それぞれの組織の仕組みと使命を理解し、一層の相互連携と協力を推進します。

2. プロジェクト立ち上げまでのスキーム

プロセス	時期(予定)	進捗
①教育長・教育部長・子ども青少年局長の方針の共有	4月下旬	4月23日
②教育部長・子ども青少年局の関係課長への説明・協議	5月上旬	5月29日
③作業部会の立ち上げ	5月下旬	6月上旬
④第1回子育て教育連携推進協議会(推進協力委員の委嘱)	7月下旬	7月20日
⑤作業部会「栗東子育て教育ビジョン」素案作成	~8月上旬	9月15日
⑥子育て教育連携推進チーム会議での検討	8月中旬	9月30日
⑦作業部会での修正	8月下旬	10月上旬
⑧子育て教育連携推進チーム会議での検討	9月上旬	10月21日
⑨第2回子育て教育連携推進協議会での原案決定	9月中旬	11月29日
⑩関係団体への意見聴取	10月	11月下旬から12月下旬
⑪作業部会での修正	11月下旬	1月上旬
⑫第3回子育て教育連携推進協議会での試案の作成		1月22日
⑬定例教育委員会、総合教育会議での提案・承認	1月下旬	1月29日

3. 「栗東子育て教育ビジョン」のイメージ

(1) 「栗東子育て教育ビジョン」の基本的な構成

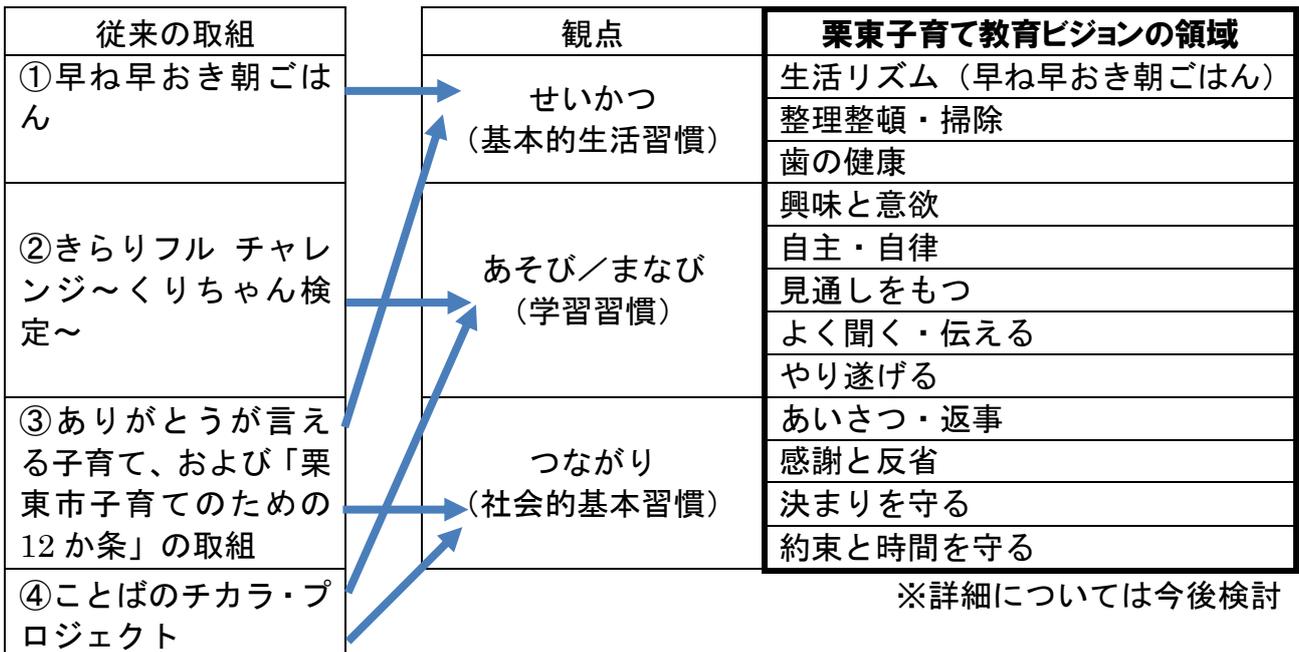
「栗東子育て教育ビジョン」とは、縦軸に「非認知能力」をはじめとして、子どもたちに身につけさせたい力を「領域」として表示し、横軸に0歳から15歳までの年齢を配置し、領域ごとに、各年齢でのねらいや働きかけについて短文で表記する「一覧表」です。

項目		年齢・学年												
		歳 0	歳 1	歳 2	歳 3	歳 4	歳 5	歳 6	1 小	2 小	2 中	3 中		
発達段階における特徴・課題														
観点	領域													
せいかつ	生活リズム（早ね早おき朝ごはん）													
	整理整頓・掃除													
	歯の健康													
あそびまなび	興味と意欲													
	見通しをもつ													
	よく聞く・伝える													
	自主・自律													
	やり遂げる													
つながり	あいさつ・返事													
	感謝と反省													
	決まりを守る													
	約束と時間を守る													

※「年齢・学年」の区分は必要に応じて結合可。詳細については今後検討
 ※6歳-小1の「接続期」については、「学びに向かう力推進事業」の成果を活用

(2) 「栗東子育て教育ビジョン」の「観点」と「領域」の設定

「栗東子育て教育ビジョン」では、「せいかつ」「あそび／まなび」「つながり」の3つを観点として、これまでの「くりちゃん元気いっぱい運動」の各取組等を、「領域」へ整理・再編成します。



4. 「栗東子育て教育ビジョン」の作成に向けた体制と計画

(1) 推進体制(概念図)・・・※1

総合教育会議・教育委員会			
推進協議会会長		こども青少年局長	
推進協議会副会長		教育部長	
名称	役割	担当	
事務局	チーム・リーダー	平子 博之	
	サブリーダー（企画担当）	中川 謙二	
	庶務	西村 尚代	
子育て教育連携推進チーム会議		関係課長 ※必要に応じて部会長	
作業部会	幼児期部	0歳から6歳のねらいと働きかけについて計画を作成します。	
		●木村 恭子	
		○柴田美知代 氏 池田 美香 (平子 博之)	
	接続期部	接続プログラムの推進について計画を作成します。	
		●本山真知子 森 聡	
	学齢期部	あそび・まなびの項目について計画を作成します。	●高野 崇
○園田 敏郎 氏			
○山内 傳 氏 五藤 章 松井 宏樹(心理職)			
小1から中3のねらいと働きかけ		せいかつ・つながりの項目について計画を作成します。	
		●吉川 寛	
		○池崎 忠夫 氏	
		○西田 雅彦 氏 赤井 信司 藤井真理子 南井 里美(栄養教諭) 井上 真澄 (中川 謙二)	

※1 進捗に応じて、作業グループや関係部課を追加する。

※2 「推進協力委員」とは、現職の保育士・教員、または学識・経験者、関係団体役員等から、担当課長またはチーム・リーダーの推薦を受け、教育長から委嘱を受けた者で、「栗東子育て教育ビジョン」作成に向けた助言を行う者。

(2) 各会議のボリューム

会議名	参加者	参加人数	開催頻度
方針協議	教育長・部局長・リーダー	4人	3回/年
事務局会	リーダー・サブリーダー	3人	8回/年
作業部会(グループワーク)	作業部会担当・推進協力委員	各3~8人	6回/年
子育て教育連携推進チーム会議	部課長・作業部会・支援部会	10人	3回/年
子育て教育連携推進協議会	教育長・部課長・作業部会・支援部会・推進協力委員	24人	2回/年